

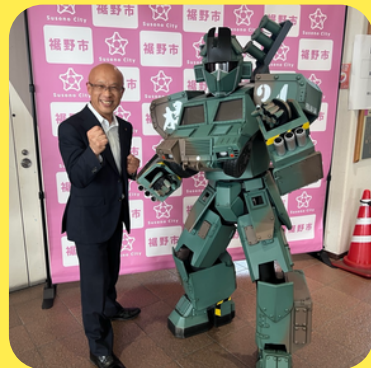
広報さとる

発行日:2025年7月29日(NO.042) 発行所:トヨタ自動車労働組合
発行人:近藤大輔 編集人:井出さとる 印刷所:(株)トヨタエンタプライズ

YOUTUBE



FACEBOOK



トークで貴重なご意見を ありがとうございます!

これまで、皆さんの職場での昼休みや仕事終わりの貴重な時間にお邪魔し、たくさんの声をお聞かせいただきました。

お話をお聞きしていると、「この道路の整備は、いつ頃終わるんだろう?」「新しくできる施設の進み具合はどうなっているの?」といった身近な暮らしに関わるご質問や、「これから裾野市は、どんな街になっていくの?」という、私たちの街の未来を見据えたご意見が、特に多かったように感じています。

皆さんが、日々の暮らしや街の将来について真剣に考え、関心を持っていらっしゃることを肌で感じ、私自身、身の引き締まる思いです。

一方で、道路工事や新しい施設の建設など、完了までに何年もかかるような大きな事業については、行政からの情報発信がもっと必要だと痛感しました。「今、どうなっているのか」「これからどう進んでいくのか」、その全体像がタイムリーに、そして分かりやすく皆さんに伝われば、不安も期待に変わっていくはずです。

皆さんの「もっと知りたい!」という声に応えるため、そして安心して未来を描ける裾野市であるために、行政により積極的で丁寧な情報発信を行うよう、しっかりと働きかけてまいります。これからも、皆さんの声を市政に届けるパイプ役として頑張りますので、引き続きご協力をお願いいたします!

「道の駅」構想、始動! ワクワクする裾野市の 未来を描こう!

議員になってから、ずっと提言し続けてきた「道の駅」の設置に向けた調査が、いよいよ本格的に始まりました。これは単なる休憩所ではなく、裾野市の魅力がギュッと詰まった情報発信基地であり、防災の拠点にもなる施設です。これからの裾野市の未来にとって、すごく大切な意味を持つ、大きな一歩になると考えています。

今の時代、モノはコンビニやネットで何でも手に入ります。だからこそ、「そこに行かなければ味わえない、手に入らない」という特別な「体験(コト消費)」が、人を惹きつける力になります。

裾野市は、首都圏から近く、関東と関西を結ぶゴールデンルート上にあるという、すごく恵まれた場

所にあります。この強みを活かして、裾野の魅力をギュッと詰め込んだ「道の駅」ができれば、たくさんの人が訪れてくれるはず。それは、裾野市だけでなく、静岡県東部地域全体を盛り上げる大きなチャンスなんです!

先日、大盛況の神奈川県南足柄市の道の駅も視察してきましたが、たくさんのヒントを得ることができました。「そこに行かないと味わえない」特別な体験ができる場所、そして地域の皆が主役になれるような、そんな道の駅を市民、行政、事業者が一緒に作っていけることが重要です!



全ての活動の原点。 「自分以外の、誰か」 のために働くということ

働くということは、常に「自分以外の誰かのため」にあるべきだ。私が大先輩から繰り返し、そして厳しく説かれた言葉です。この、当たり前のようで、とても奥が深い言葉が、今も私のすべての活動の原点です。

会社のため、組織のため、もちろんそれも大事なことです。でも、大きな組織のなかにいると、時として「何のために、誰のために」という一番大切な部分が見えにくくなってしまふことがあるのかもしれない。そんな風に感じることもあります。

ルールを守ること、慣例に従うこと。それ自体が目的になってはいないだろうか。私たちが本当に向き合うべきは、その先にいるはずの、働く仲間や、地域で暮らす一人ひとりの笑顔ではないでしょうか。

この想いを特に強くしたのが、先日参加した「コモ未来会議」での光景です。市内の小中学生たちが真剣な眼差しで、自分たちの言葉で、一生懸命に裾野市の未来を語る。その姿は、本当に頼もしく、何より

何より眩しく映りました。

彼ら、彼女らこそが、次の時代の裾野市を創っていく主役です。



私たち大人が、この子たちにどんな未来のバトンを渡せるのか。以前、市内中学校の授業に参加した際、生徒から「なぜ裾野市にはお金がないの?」と、まっすぐな質問を投げかけられたことがあります。子どもたちは、私たちが思う以上に、この街の今と未来を真剣に見つめています。

だからこそ、彼らが大人になったとき、胸を張って「裾野市で暮らしてきて良かった」と心から思える、希望に満ちた社会の土台を築くこと。「大人としての役割」を、改めて心に誓いました。

裾野市議会議員の議員定数を議論中

裾野市議会では、令和4年に設置された「議会のあり方検討特別委員会」が、次期選挙に向けた議員定数について検討を進めています。市議会は、平成22年に定数を24人から21人へ、平成30年には21人から現行の19人へと削減してきた経緯があります。

委員会では、人口や財政規模が類似する他の自治体との比較データや、これまでの議会活動の実績データを基に、議員間で議論が行われています。主な論点と意見は、

・ 現状維持(19人)

- 多様な市民意見を議会に反映させるためには、現在の議員数が必要。
- 常任委員会の議論の質を担保するには、1委員会あたり最低6人の委員が必要であり、現在の3委員会・19人体制が適正。

・ 1人削減(18人)

- 人口減少や財政負担の軽減を考慮し、議会運営に大きな影響のない1人の削減は財政的効率化につながる。
- 議員定数を偶数にすることで、採決が同数となった際に議長が判断を下す「議長裁決」の可能性を減らすことができる。

・ 3人削減(16人)

- 最小の経費で最大の効果を求める観点や、区長会など市民からの削減要望に応えるべき。
- 常任委員会を2委員会に再編することで、1委員会あたりの人数が増え、審査の視点が広がるという意見もある。

これらの議論を踏まえ、意見を聴取するためのアンケート調査を行いながら、本市の実情にあった定数について結論を出していきます。